

中古文学会 2024 年度秋季大会 開催案内

【重要】 会員のみなさまへ

2024 年度中古文学会秋季大会の開催につきましては、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることといたしましたので、お知らせ申し上げます。ご了承の上、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

- (1) 秋季大会は、全プログラムを対面にて開催します。参加にあたり事前申し込みを原則としますが、会員の場合、事前申し込みなしでも当日の参加を受け付けることとします（大会参加費として 1,000 円を現金でお支払いいただきます。釣銭の必要がないようご配慮ください）。
- (2) 現地参加が困難な方々のことも勘案し、シンポジウム・研究発表等を録画しまして、大会日程終了後、事前申し込みをされた会員に限って視聴できるようにします（学会ポータルデスクの協力を得て録画いたしますが、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もありえます）。なお、視聴後に質問等を行うことはできません。
- (3) 1 日目に開催する懇親会への参加を希望される方は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください（事前申し込みが原則です）。懇親会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 4,000 円です。なお、懇親会の形態は今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外、返金できません。ご了承ください。
- (4) 2 日目の昼食（お弁当）の販売を行います。希望される場合は、同封の振込票によって申し込みを行ってください（当日の申し込みはできません）。昼食代（お茶付）は、1,200 円です。
- (5) 現地参加の場合、同封の振込票によってなるべく事前申し込みを行ってください。録画視聴を希望される場合は、上記（2）のとおり、事前申し込みを必須とします。いずれも大会参加費（資料集代を含む）は 1,000 円です。なお、「資料集」の PDF による配付は行いません。
- (6) 事前申し込みをされた方には、大会の前（11 月上旬を予定）に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送します。現地参加の方は、「資料集」を会場に持参してください。また、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。
- (7) 今後の感染拡大などの状況によっては、大会の全プログラムを遠隔開催とすることもあります。開催形態を変更する場合は、11 月上旬までに学会公式サイトに掲載します。
- (8) 会員外の方も、学会 HP からの事前申し込みによって現地参加が可能なこととします（ただし、懇親会参加、昼食の注文、録画視聴は不可）。大会参加費（1,000 円）については、当日の受付にて現金でお支払いいただきます（釣銭の必要がないようご配慮ください）。なお、1 日目のシンポジウムにかぎり、一般市民向けに公開する予定です。

そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に関する事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。中古文学会事務局

© 中古文学会公式サイト <https://chukobungakukai.org/>

大会日程・大会会場

大会日程	11月16日(土) 13:00~17:00 <受付> 12:30 受付開始 シンポジウム (17:30より 懇親会)
	11月17日(日) 10:10~14:55 <受付> 9:40 受付開始 研究発表会、中古文学会賞授与式(午前) 委員会、研究発表会(午後)
大会会場	関西大学 千里山キャンパス 第1学舎1号館 千里ホール 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
懇親会会場	関西大学 千里山キャンパス レストラン チルコロ (新関西大学会館南館4F)

大会参加要領

- 1. 大会参加費**
 - ・参加費(資料集代を含む): 現地参加、録画視聴いずれも1,000円
 - ・懇親会: 一般会員6,000円、学生会員4,000円
 - ・昼食代(2日目): 1,200円
※入金された参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。
※領収書は、振込受領証に替えることとし、基本的に別途発行いたしません。
- 2. 申し込み方法**
 - ・同封の振込票による入金をもって申し込みを承ります。必要事項をご記入の上、上記の額をご入金ください。
 - ・加入者名 中古文学会大会実行委員会
 - ・口座番号 00240-3-99727
- 3. 会員外の方の申し込み方法**
 - ・学会公式サイトより申し込み締切までにお申し込みください。
 - ・申し込み時にご記入いただいた個人情報、本大会の運営管理にのみ使用させていただきます。
 - ・参加費(1,000円)は当日会場受付にて現金でお支払いください(釣銭の必要がないようご配慮ください)。
- 4. 申し込み締切** 2024年10月18日(金) ※締切後の申し込みは承ることができません。
※締切後の入金は固くお断りいたします。
- 5. 住所・所属等の変更**
 - ・住所・所属等の変更は、学会公式サイト「会員ページ」をご利用ください。
同封の振込票に記載されても、変更について承ることができません。
- 6. 学会費の納入**
 - ・同封の振込票は【**大会参加費専用**】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。
- 7. 出張依頼状**
 - ・氏名・職名・提出先(所属長名)を明記の上、ポータルデスクへメールでお申し込みください。
- 8. 会場について**
 - ・キャンパス内は「指定喫煙所」以外、全面禁煙です。
 - ・キャンパスには有料駐車場がありますが、台数が限られています。公共交通機関のご利用をおすすめいたします。
 - ・大会期間中、学内の食堂は営業していません。

9. 宿泊について ・ 観光シーズンのため、各自で早めにご予約ください。
10. 交流広場
(フリースペース) ・ 以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。
用途：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。
資格：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。
申込：氏名(団体の場合は団体名および代表者名)・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、10月18日(金)までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。
注意：スペースに限りがあるため、申し込み先着順で受け付けます。広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。当日は、受付で利用手続きをしてください。交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込み、管理は各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。
11. 臨時託児室 ・ 以下の要領で臨時託児室を開設します。
日時：11月16日(土) 12:30~17:30、17日(日) 9:40~15:30
対象：生後8週間を経過した乳児から小学6年生までの児童
運営：SOUキッズケア
料金：無料
申込：保育対象者の人数・年齢・利用日および時間帯を明記し、10月18日(金)までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。折り返し、詳細な手続き等をご案内します。
12. 問い合わせ先 ・ **大会全般に関すること**
中古文学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内
E-mail：info@chukobungakukai.org
- ・ **参加申し込み、参加費納入、出張依頼状に関すること**
中古文学会ポータルデスク
〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-11 吉延ビル4F 株式会社新典社内
E-mail：info@chukobungakukai.org
- ・ **会場、交流広場に関すること**
中古文学会大会実行委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部 松本 大研究室内
E-mail：o.matsu@kansai-u.ac.jp

大会プログラム

会 場 関西大学 千里山キャンパス

【シンポジウム・研究発表会】 第1学舎1号館 千里ホール

※休憩室・委員会会場・書籍販売所・交流広場等は、現時点では未確定です。

懇親会会場 関西大学 千里山キャンパス レストラン チルコロ

(新関西大学会館南館 4F)

第1日 11月16日(土)

12:30	受付開始
13:00-13:05	開会の辞 関西大学文学部長 村田右富実
13:05-17:00	シンポジウム「平安文学作品の視覚化・映像化」 趣意説明 関西大学 松本 大 〔基調講演〕「枕草子」はストーリーのある映像作品の底に敷くものとなり得るか アニメーション映画監督 片渕須直 ……休憩 (14:15-14:25) …… 〔基調報告①〕宝塚歌劇と古典文学 京都女子大学 小山順子 〔基調報告②〕「光る君へ」の装束・『源氏物語』の装束 ——史実と創作のはざままで何が表現されたのか—— 明治大学 森田直美 ……休憩 (15:25-15:50) …… 討議、フロアとの質疑応答 (司会) 松本 大
17:30-19:30	懇親会

第2日 11月17日(日)

9:40	受付開始	
10:10-11:30	研究発表会(午前) 〔研究発表①〕 『今とりかへばや』入内しない女君 —— 関白左大臣家の栄華について —— 早稲田大学〔非〕 柿寄理恵子 〔研究発表②〕 『河海抄』所引の「伊行尺」について 筑波大学〔院〕 小林雄大	
11:30-12:00	中古文学会賞授与式 ……休憩(12:00-13:30)・委員会(12:10-12:50)……	
13:30-14:50	研究発表会(午後) 〔研究発表③〕 経国と不朽 —— 魏文帝「典論論文」の受容をめぐって —— 大阪大学 滝川幸司 〔研究発表④〕 『土左日記』の船旅 —— 「室津」停泊の前後について —— 神戸女子大学〔名〕 北山円正	
14:50-14:55	閉会の辞	中古文学会代表委員 陣野英則

※中古文学会秋季大会の開催を記念して、以下の特別展を開催いたします。

展示企画名：「**関西大学所蔵の古典籍 —— 平安文学作品を中心に ——**」

期間：2024年10月30日(水)～2024年11月26日(火)

場所：関西大学総合図書館展示室

(総合図書館の正面入口よりお入りいただき、すぐの右手側です)

平安文学作品の視覚化・映像化

趣意説明 関西大学 松本 大

〔基調講演〕 「枕草子」はストーリーのある映像作品の底に敷くものとなり得るか
アニメーション映画監督 片渕須直

〔基調報告①〕 宝塚歌劇と古典文学
京都女子大学 小山順子

〔基調報告②〕 「光る君へ」の装束・『源氏物語』の装束
——史実と創作のはざままで何が表現されたのか——
明治大学 森田直美

討議、フロアとの質疑応答 〈司会〉 松本 大

【趣意】

平安期の古典作品に限ったことではないが、文学作品のほとんどは、本来的には文字の羅列でしかなく、その文字によってもたらされた情報の集合体が作品世界である。現代の研究者の多くも、作品の把握・理解は、まずは文字によって行うものであり、それを自明かつ当然のことと認識していよう。

しかしながら、古典文学作品が現代まで受け継がれてきた実態を文化的な側面から捉えると、作品にまつわる様々な営為は必ずしも文字という媒体だけに依拠したものでないことに気付く。特に、古典文学作品においては、各時代で繰り返し作品世界の再現・再生が行われてきており、単に文字情報を承げるだけに終始するのではなく、その得られた情報を別の形態で発信することが度々試みられてきた。

これらの二次的な発信は、広い意味では作品世界に付随するものという点、また、二次的な産物であったとしても作品そのものの理解に結びつくことがある点で、作品そのものにとって変わられる場合も多い。これらに対して、正しい・誤りといった判断を下すことはあまり意味がなく、なぜなら、作品の受け手側は、むしろ二次的なものを含めて作品を認識している場合が散見されるからである。

このような意味において、文学作品は、媒体を変えながら、作品を取り巻く世界を広げ続けていると捉えられる。具体的にあげるならば、絵画、舞台、ドラマ、マンガ、アニメ、ゲーム、近いものであればメタバース空間での実践など、枚挙にいとまがない。今後も古典文学作品は、様々な媒体によって、思いもつかない姿を見せるであろうことが容易に想像される。そしてこれらの大半は、文字情報を視覚化・映像化する営為と位置付けられる。

ところが、我々研究者は、こうした実状をどれほど自覚的に認識しているであろうか。自戒を込めて振り返ると、我々研究者は、古典文学作品の二次創作に対して、研究対象として取り上げることを忌避する風潮や、作品そのものよりも劣るという先入観を持ち、話題性を重視しただけのイロモノを扱うような態度で臨み、積極的な理解や分析模索を怠ってきたのではないか。この状況は昨今改善されつつあるが、まだ十分とは言えないのではないか。直近の文化的動向に合わせた、作品の変容・新たな表現化といった事象について、直近の我々研究者が目を見てしまうのでは、学会としても大きな損失であると考える。

また、近年では古典文学を研究しようとする学生が減りつつあることが度々嘆かれるが、古典文学に触れるきっかけや入口として、視覚化・映像化された媒体が果たす役割は少なくない。おそらく諸賢も、ドラマ・アニメ・漫画等をきっかけとして学問を志そうとする学生に出会った経験は、一度や二度ではないはずである。そのきっかけの部分に対して、我々研究者が出来ることはどのようなことであろうか、また、世間からの要望にどれほど応えているのか、どのように研究成果を見せていくべきなのか、といった重要な要素を、現在の最新の動向に合わせてより明確に捉えておく必要がある。

以上述べてきたことは、昨今の様々な動向に迎合しているのではなく、文化事象として適切に対峙すべき時宜を得ている、という建設的提言であると捉えていただきたい。三名の登壇者には、それぞれの実践・観点から、視覚化・映像化に対する考究もしくは問題提起を行っていただく。当シンポジウムが、既存研究の刷新や新たな研究対象の提示に留まるだけでなく、新技術をうけた斬新な発想転換など、次の時代の古典文学作品研究を見据える機会となれば幸いである。

(松本 大)

〔基調講演〕

「枕草子」はストーリーのある映像作品の底に敷くものとなり得るか

片淵須直

清少納言と「枕草子」を題材にアニメーション映画を制作しつつある。これらが題材になると考えたのは、清少納言の認知特性が（映像の作り手である自分たちと共通した）視覚優位型であり、「枕草子」の記述に視覚像記憶に基づく部分が多く含まれているとし、おおよそ千年前の世界を映像で表現するための根拠となり得ると判断したからだった。

こうした視点を延長して、「枕草子」本文から中宮女房としての清少納言の立場とその年次的変化などを導き出し、彼女のポジションが一定ではなく、立場が変化していった経過の中で少納言自身の人間的変化があったことを浮かび上がらせて、ドラマの基礎を得た。そこで行った方法などについて述べる。

〔基調報告①〕

宝塚歌劇と古典文学

小山順子

宝塚歌劇団は、今年（二〇二四年）に百十周年を迎える、長い歴史を持つ劇団である。宝塚歌劇団の演目の中には古典文学を原作とした作品がある。たとえば『源氏物語』は「新源氏物語」「あさきゆめみし」など、脚本・演出家を替えて何度も上演されている。しかし古典文学を原作とした演目が減少していることは、これまでも指摘されてきた。第二次世界大戦後の「日本物」の演目がどのように変化してきたかを分析し、どのような作品が舞台化されてきたのか、また古典文学との関わりが希薄になっていった理由を考察する。

〔基調報告②〕

「光る君へ」の装束・『源氏物語』の装束

——史実と創作のはざままで何が表現されたのか——

森田直美

『源氏物語』には、当時の社会通念に鑑みて特異と思われる装束表現が散見される。そして、文学研究の場では、その特異性こそ重要な着眼点と見なされてきた。現代の二次創作における作品改編や史実（考証）に齟齬する点も同様に、その表現の意図を探る端緒と捉えれば、研究・教育の場で有効に活かせるのではないか。

本基調報告では、NHK大河ドラマ「光る君へ」の衣装デザイン担当・諫山恵実氏へのインタビューをもとに、同作品における装束表現の特色や狙いを見出す。その上で、同作品の装束を視座とした研究やワークショップを提案したい。

研究発表要旨

11月17日（日）

〔研究発表①〕

『今とりかへばや』入内しない女君 ——関白左大臣家の栄華について——

早稲田大学〔非〕 柿寄理恵子

本発表は『今とりかへばや』の関白左大臣家の栄華をめぐる言説を分析し、物語が成立し

たとされる平安末期の院政下において、関白左大臣家と王家が従来の入内によらずに結びつく物語が、いかなる意義を持つのか検討する。

関白左大臣家は、二人の子供の異性装に翻弄された家であると同時に、唯一の后がねたる女君を通常の形で入内させることができなかった。巻四で、異性装を解き、きょうだいの男君と立場を交換した女君は、尚侍として帝に見初められ若宮を産む。帝は初めての御子となる若宮を春宮とし、女君は女御の宣旨を受け、間もなく立后する。従来、女君の栄華は、尚侍として朱雀帝に寵愛された『源氏物語』の朧月夜や、鳥羽院の寵愛を受けて躰仁親王を産み、後に女御、皇后となった藤原得子など、物語と史実の双方から影響を受けて描画されたと解釈されており、女君の栄華には皇子の誕生が必須だったと指摘される。しかし、女君の栄華や入内をめぐる言説に注目すると、次代の関白左大臣となる男君が、女君が入内を経ずに帝寵を得たことを嘆いており、物語は女君の栄華を無邪気に称揚してはいない。そこから、関白左大臣家が繁栄に至る過程にこだわりを持っていることが伺えるのだが、それと同時に関白左大臣家の抱えた問題が現れているように思われる。院政下の撰関家の置かれた状況にも視点を当て、考察を行いたい。

[研究発表②]

『河海抄』所引の「伊行尺」について

筑波大学 [院] 小林雄大

『源氏積』は、以後の注釈書に、必ずしも直接引用されるわけではない。例えば、『岷江入楚』所引の「伊行尺」の約九割は、「河」とされる注のなかに見られ、『河海抄』経由であることが知られる。注釈史における「伊行尺」については、『源氏積』と『河海抄』所引のものとを見合わせる必要がある。しかし、『河海抄』に引かれる「伊行尺」に関する研究については、『河海抄』、『源氏積』それぞれの現存諸本間に異同、異文が多く確認されることから、たち遅れている状況にあると言える。

本発表では、『河海抄』所引の「伊行尺」と『源氏積』との本文比較を試みる。まず、『河海抄』に引用される「伊行尺」には、冷泉家本、前田家本『源氏積』と近似する例が確認されるのに対し、「源氏或抄物」とは隔たりが見られることをたしかめる。

一方、『河海抄』現存諸本間には、所引の「伊行尺」の内容に差異が確認できる。それが、『源氏積』でなく、『河海抄』側の成立や、書写等の問題とかかわることについて考察する。さらには、『河海抄』現存諸本における「伊行尺」の異同、異文が、後世の注釈書に引かれる『源氏積』の内容の差異にまでつながることを明らかにする。

あわせて、現存する『源氏積』伝本に見られない内容を「伊行尺」として挙げる『河海抄』の注にも注目する。そのような注が後世の注釈書にも確認される点を通じて、『源氏積』の「善本」の問題についても検討する。

〔研究発表③〕

経国と不朽 ——魏文帝「典論論文」の受容をめぐって——

大阪大学 滝川幸司

凌雲集序冒頭に引用される魏文帝の「文章は経国の大業」（典論論文）は、文学と国家経営を結びつけた揚言として、嵯峨朝の漢詩文隆盛の思想的基盤となったと論じられる。しかし、この〈文章経国〉が当時を覆う思潮として捉えうるかについては疑問を呈したことがある。弘仁三年の勅、凌雲集序、嵯峨天皇の有智子宛の詩が、こうした思潮を表す根拠として論じられたが、弘仁の勅は大学寮の理念に関わり、初唐の学校制度に関する詔勅等に学んだ表現で、魏文帝の言葉とは異にする基盤があった（滝川「国を経め家を治むるに文より善きは莫し」国語国文 92-12）。魏文帝の言葉として〈文章経国〉を理解するにしても、対句となっている「不朽之盛事」を重視する必要性も述べた（滝川「経国の「文」」『日本「文」学史一』勉誠出版）。本発表では、魏文帝の言葉として引用される「文章者経国之大業、不朽之盛事」が、どのように利用されているのかを確認することで、今一度、受容の実質について検討したい。中心となるのは、凌雲集序、経国集序、菅原文時「封事三箇条」である。少ない資料と思われるかも知れないが、文帝の言葉として引用する文章はその程度である。もちろん、毛詩大序以来の伝統的な政教主義的文学観を示す資料は他にもあるが、あくまで魏文帝の言葉がどのように受容・利用されているかを問題としたい。見えてくるのは、「経国」とともに「不朽」の重要性である。

〔研究発表④〕

『土左日記』の船旅 ——「室津」停泊の前後について——

神戸女子大学〔名〕 北山円正

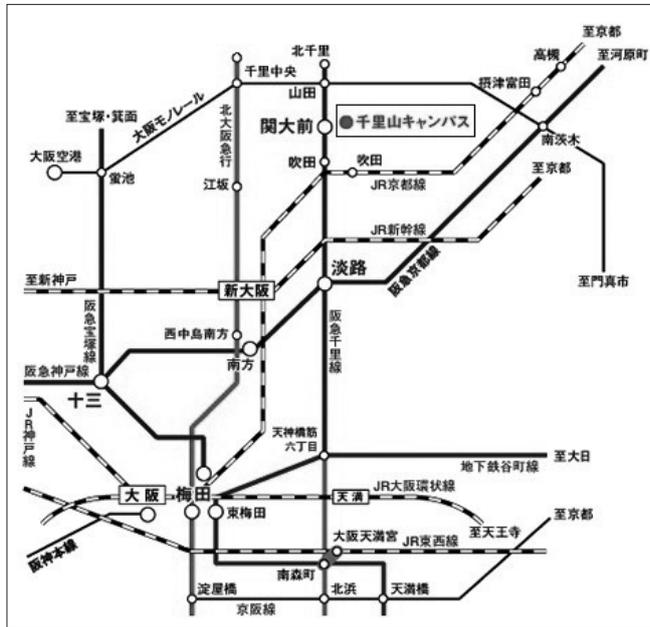
承平四年正月十一日、紀貫之ら一行の船は室津に停泊し、二十一日までその地にとどまらねばならなかった。悪天候によって出航できなかつたのである。この期間を挟んで、その前後に描かれている人々の様子は大きく変化する。土左国の人たちは帰京する貫之を慕い、多くの人が別れを惜しみ送別の宴をくり返し催した。それに船出してからも停泊する地へ追いかける人々があり、せめて国内はと語っている。善意に満ちた国人ばかりが登場する。これは国守貫之が良吏であったことを述べるだけではないだろう。

これに対して室津出航後は、まず海賊が襲い来る不安に悩まされる日々がつづく。そして、梶取の意向で出航を控えたり、言うがままに神に幣を献つたりと、船君貫之には意に染まぬことがある。都に近づくと、饗応してくれる人が現れる。下向したときはそうでもなかったのと思わざるを得ない。裕福になった国守からの返礼に期待したのである。さらに邸に到着すると、その荒廢に我が目を疑った。望んで邸を預かった隣人が放置したままだったので

ある。つまり世俗のけがれた一面が次々と描かれたと言わねばならない。

ではなぜこのような人の心の両面が、室津の停泊を境として現れるのであろうか。それは土左国を異界・異境と捉え、室津から都への途次を俗世・濁世として表現しようとしたからではないか。本発表では、作中の表現を取り上げて出典等を検討しつつ、この点を明らかにしたい。

■ アクセス案内 ■



【電車でのアクセス】

阪急電鉄千里線「関大前」駅下車、すぐ。
※発表会場までは徒歩約10分。

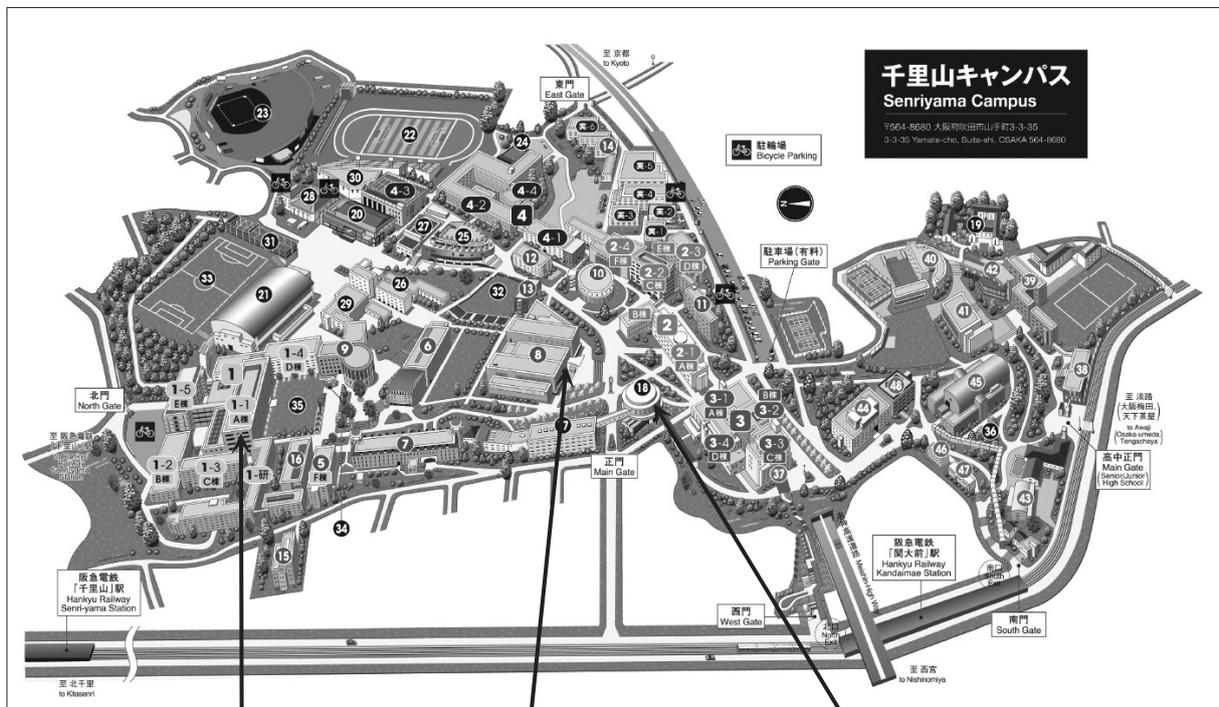
【新幹線「新大阪」駅からのアクセス】

JR「新大阪」駅から地下鉄 Osaka Metro 御堂筋線「なかもず」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車。（この間約30分）

【大阪（伊丹）空港からのアクセス】

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車。（この間約30分）

■ キャンパスマップ ■



発表会場
第1学舎1号棟
千里ホール

貴重書展示
総合図書館展示室

懇親会会場
レストラン チルコロ
(新関大会館南館4F)